

## － はじめに －

近年、子どもと子育てをめぐる社会環境は大きく変化し、子育て家庭の孤立、子育ての不安感・負担感の増加、貧困やDV、児童虐待は止まる気配がなく、より深刻化している。

高知県福祉事業財団では平成27年度の基本方針として児童養護においては、児童の権利擁護や子ども一人ひとりの育ちを効果的に支援していくために、「児童福祉の理念」に沿った施設運営に努めるとともに、関係機関との連携を図りながら現代社会に適應できる児童の健全育成に努めました。

母子生活支援施設においても同様の課題克服に向けて支援においては、それぞれの人格と個性を尊重し、課題に寄り添いながら自立に向けた合理的・計画的な取り組みを進めました。

保育園の運営については、保育の「量的拡充」と「質の改善」、家庭における養育支援の拡充を目指すとともに、園舎の老朽化、耐震対策を踏まえた園舎改築への取り組みを進めました。

また、各施設の平成27年度事業計画に掲げた重点目標への取り組みについては、次のとおりです。

### 児童養護施設 子供の家

昭和24年の開園以来67年が経過し、社会情勢の変遷にともない入所理由は変化してきたが、この間社会に巣立って行った児童、又家庭等に復帰した児童は合計995名に及んでいる。

平成23年7月に「社会的養護の課題と将来像」が取りまとめられ、その示された方向性に従い平成26年度に子供の家の「家庭的養護推進計画」を策定した。

計画の内容は、施設の小規模化及び家庭的養護の推進、さらに地域分散化等が中心となっており、平成27年度より15年間で実現することとなっている。

#### ◎平成27年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

##### (1) 児童の権利擁護

- ① 被措置児童の虐待防止研修を始め様々な研修に職員を参加させるとともに、職員会や施設内研修を通じ、養育者としての資質の向上に努めた。
- ② ブロック会や意見箱、さらに児童アンケート等により児童の声の把握に努め、個々の児童に応じた養育に取り組んだ。

##### (2) 児童の養育・支援

- ① 担当職員と個別対応職員の連携はもちろんのこと、必要に応じ心理士、看護師も関わり組織一体となった対応に努めた。
- ② 児童の自立に関しては、児童の意志を尊重することを基本に学校、関係機関と連携し助言、支援に努めた。

◆被虐待対応個別相談員の活動状況

- 個別対応児童数 12名
- 個別対応年間実施日数 70日
- 1日当たり平均実施時間 120分
- 保護者への児童の施設での生活状況の説明

◆平成28年3月に中学又は高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	中卒	男	○		県立伊野商業高校キャリアビジネス科
2	高卒	男		○	株式会社高知歯車
3	〃	男		○	株式会社コイスレイパ°-(CoCo 壱番屋)
4	〃	男		※	就労サポートセンターかみまち

※は、就労移行支援事業所

(3) 家庭支援、地域支援の強化

- ① 家庭支援専門相談員とブロック担当職員が連携し、在園退園児童に関わらず家庭支援に努めた。特に退園に際しては、複数回の家庭訪問や家族児童との面談を重ねるなどの取り組みを行った。
- ② 地域支援では、高知市を始め8市町村と子育て支援短期利用事業の業務委託契約を結び、積極的に児童の受け入れに努めたが、今後は新たな地域子育て支援の実施が課題である。

(4) 小規模化の一層の推進

- ① 将来の全ブロック小規模化を目指し、小規模グループケア加算対象を昨年度より2ヶ所増やし4ブロックとするとともに、専任職員を各ブロック2名配置し地域分散化を見据え職員のスキルアップに取り組んだ。

(5) 防災対策

- ① 防災マニュアルを見直すとともに、年間避難訓練計画に基づき火災、地震、津波等を想定し、様々な形で避難訓練を実施した。
- ② 備蓄食料等の点検を随時行うとともに、地域の避難所としての役割を果たすため、日頃より積極的に地域行事に参加をし地域との関係を深めた。

(6) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 組織内研修の他、県内外の階層別研修、専門的研修に積極的に職員の参加を図り職員の資質向上に努めた。
- ② 職員会などにおいて「家庭的養護推進計画」の進捗状況を説明するとともに、様々な社会的養護に関する情報を提供し、全職員での施設運営を目指す取り組みを行った。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 3回／8名      ○中四国養協関係 2回／3名  
 ○県養協関係 1回／2名      ○県社協関係 3回／9名  
 ○各種専門研修ほか 5回／100名      ○その他 3回／6名

なお、上記のほか毎月定期的に職員会、処遇会を実施するほか、必要に応じてケース検討会を実施し、情報の共有化を図ると共に資質の向上に努める。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
定員（暫定）	70名	70名 (65名)	70名 (60名)	70名 (57名)	70名 (58名)
在籍児童数	48名	48名	55名	47名	42名
職員数	32名	33名	31名	34名	37名

※職員数：臨時・パートを含む

◆学年別児童数

平成28年3月31日現在

	就 学 前		小 学 校						中 学 校			高 校			そ の 他	計
	3歳 未満	3歳 以上	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年		
男	0	4	2	1	3	2	3	3	0	3	2	6	2	0	1	32
女	1	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	10
計	1	10	2	2	3	2	3	3	0	3	2	6	3	1	1	42

◆入所主訴理由別児童数

平成28年3月31日現在

入所理由	人 数	構成比	入所理由	人 数	構成比
父母の行方不明	1	2.4%	虐 待	10	23.8%
父母の離婚	1	2.4%	経済的理由	1	2.4%
父母の拘禁	2	4.8%	精神疾患・入院	2	4.8%
父母の傷病・入院	2	4.8%	措置変更	7	16.6%
父母の養育困難	16	38.0%			
			合 計	42	100%

◆保育士、社会福祉士、介護等施設実習生の受入れ(県立大学、高知大学、龍馬看護  
ふくし専門学校、高知学園短大等)

◆一時保護委託の状況(受託先:児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成27年度	17名	17名	304日
平成26年度	11名	16名	68日
平成25年度	10名	10名	130日

◆子育て支援短期利用事業(受託先:高知市・南国市・伊野町・土佐市・日高村)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成27年度	20名	29名	160日
平成26年度	3名	3名	74日
平成25年度	38名	59名	245日

◆平成27年度主要な年間行事

- 4月 シニアリーグ(サッカー)開幕、市教職員組合来園
- 5月 子どもの日バイキング、ファイティングドックス試合招待
- 6月 輪抜け祭
- 7月 高知市児童福祉施設交歓スポーツ大会、城東地区ドッジボール大会  
七河川一斉清掃、幼児室ブロックBBQ、四国ブロックスポーツ交歓会
- 8月 ブドウ狩り招待、こども金融・科学教室招待、キャンプ
- 9月 健康診断(鏡川LC)、バーベキュー招待(鏡川LC)
- 10月 児童福祉施設交流会、みんなのうたコンサート招待
- 11月 フィリップモリスジャパン来園
- 12月 総合防災訓練、クリスマス会(岡崎市長、四銀労組他)  
船釣り体験招待、在日本大韓民国婦人会クリスマス招待
- 28/1月 お正月祝い
- 2月 節分豆まき、Jリーグ観戦、スギテツ大音楽会招待
- 3月 ハッピードリームサーカス招待、皿鉢料理寄贈、総合防災訓練
- その他 ◆「散髪奉仕団・風」による散髪奉仕の来園(毎月第4月曜日)

開園以来54年が経過し、家庭での養育が困難な児童の養護にあたってきましたが、この間に社会に巣立った児童及び家庭等に復帰した児童は309名を数えています(平成27年度は3名が退園)。

近年は、虐待を入所理由とする児童の増加が著しく、特に親の離婚、貧困や発達障害などが要因として挙げられます。子どもや家庭をめぐる課題は複雑化、深刻化しており施設処遇においても職員の専門性とスキルの高さが求められています。

今後も、これらの児童に対する心理的ケアの充実を最重要課題として、引き続き心理士や関係機関との連携により、改善に向けた日々の努力を積み重ねてまいります。

◎平成27年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 職員は施設内外の研修に参加するなど人権感覚を磨き、養育者としての倫理観や責任感を持ち、児童一人ひとりが安心して安全に生活できるよう生活環境の整備や養育に努めた。
- ② 権利侵害により児童の心身の健康的な発達が妨げられないよう、定期の児童集会や意見箱の設置等、児童の最善の利益を目指した養育・支援に取り組んだ。

(2) 児童の養育・支援

- ① 在園児童の66.6%が心理療法を必要としており、児童相談所や専門機関とも連携し、職員間で情報を共有しながら児童の心理的ケアに取り組んだ。
- ② 学校と連携して就職情報を提供。児童が希望する職種選択の相談に乗るなどの就職支援を行った。
- ③ 学習ボランティアの協力も得て、学習環境の整備を行い児童の希望する進学校を目指した学習支援に取り組んだ。

◆被虐待対応個別相談員の活動状況

- 個別対応児童数 20名
- 個別対応年間実施日数 40日
- 1日当たり平均実施時間 60分
- 心理担当職員との連携及び職員会での情報交換

◆平成28年3月に中学又は高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	高卒	女		○	株式会社あわしま堂
2	〃	女		○	株式会社かね岩海苔
3	〃	女		○	有限会社美容室さかもと
4	中卒	女	○		県立高知追手前高校
5	〃	男	○		県立高知東工業高校電子機械科
6	〃	男	○		県立高知城山高校

### (3) 家庭支援の強化

- ① 家族の相談に応じるとともに、児童相談所や家族の居住する市町村・関係機関と連携し、児童と家族の関係調整を行った。
- ② 家庭引き取りに向けた児童と家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを行い、地域支援者会議を通して地域の受け皿づくりに努めた。

### (4) 事故防止と安全対策

- ① 事故発生対応マニュアル、食中毒・感染症マニュアルに基づいて対応し、インフルエンザ等の流行期には予防措置を徹底した。
- ② 防災対策マニュアルに基づき避難、防災、防火訓練を定期的に実施した。

### (5) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会に参加し、気になる児童や家庭の情報を共有して対策を協議し、実践に努めた。
- ② 児童相談所との連携については、ケース会、面会、通所と児童の支援状況により家庭も含めての情報共有に努めた。
- ③ 児童と地域との交流については、町民運動会や神社の伝統行事、盆踊り等に参加するなどの交流を行った。

#### ◆一時保護委託の状況（受託先：児童相談所）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成27年度	3名	3名	32日
平成26年度	0名	0名	0日
平成25年度	3名	3名	175日

#### ◆子育て支援短期利用事業（受託先：香南市）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成27年度	2名	2名	10日
平成26年度	3名	7名	7日
平成25年度	4名	11名	82日

### (6) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 児童の養育全般、虐待、発達障害等、専門分野別研修など県内はもとより全国、中四国で実施される研修に参加し、職員のスキルアップを図った。
- ② 全職員の参加による第三者評価を受審したことにより、自己評価を施設運営など課題の振り返りに繋げることが出来た。

#### ◆各種研修会等への参加状況

○全養協関係 2回／2名      ○中四国養協関係 4回／10名

○県養協関係 11回/19名 ○各種専門研修 8回/13名

(計25回・延44名…1研修会当たりの受講人数/1.8名)

その他、実習終了後「児童の処遇のあり方」について実習生反省会を兼ねた研修を5・9・2月の年3回全員参加で実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
定員（暫定）	30名 (29名)	30名 (28名)	30名 (27名)	30名 (29名)	30名 (28名)
在籍児童数	23名	23名	24名	27名	24名
職員数	15名	15名	16名	17名	16名

※職員数：臨時・パートを含む

◆学年別児童数

平成28年3月31日現在

	就 学 前		小 学 校						中 学 校			高 校			そ の 他	計
	3歳 未満	3歳 以上	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年		
男	0	2	0	2	0	2	1	1	1	1	2	1	0	0	0	13
女	0	3	0	0	1	2	0	0	2	0	1	1	1	0	0	11
計	0	5	0	2	1	4	1	1	3	1	3	2	1	0	0	24

◆入所主訴理由別児童数

平成28年3月31日現在

入所理由	件 数	構成比	入所理由	件 数	構成比
父母の行方不明	0	0.0%	虐 待	11	45.8%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	0	0.0%
父母の拘禁	0	0.0%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	1	4.2%	措置変更	9	37.5%
父母の養育困難	2	8.3%	その他	1	4.2%
			合 計	24	100%

◆平成27年度主要な年間行事

4月 新年度ホーム編成、小中学校家庭訪問

5月 GW買物ツアー(ｲﾝ)､施設実習(龍馬学園)、第1回中央児相サポートケア

6月 第1回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議

- 7月 七夕祭り、第2回中央児相サポートケア
- 8月 手結盆踊り参加、南国市せいらんキャンプ
- 9月 施設実習(学園短大・環太平洋大短大)、小・中学校運動会、城山高校体育祭、第2回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議
- 10月 幼稚園運動会、夜須町民運動会、防災キャンプ in 夜須Y S P
- 11月 中学校文化祭、夜須八幡棒打ち、百手祭
- 12月 RKCジャンケンサンタ、クリスマス会、ワールドメイト、グリーンコール、競輪選手会もちつき、開園記念日会食会
- 27/1月 お正月祝い、初詣、買物ツアー(休)、
- 2月 節分、お別れ遠足、施設実習(高知福祉専門学校)、第3回中央児相サポートケア、第3回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議
- 3月 施設実習(高知福祉専門学校)、卒園式、お花見会

母子生活支援施設 **ちぐさ**

母と子が一緒に生活できるという特徴を持った唯一の児童福祉施設として、母と子の権利と尊厳を擁護しながら、それぞれの生活課題に向き合い、安全な居場所を提供し自立にむけた考えを尊重しその歩みをともした。

◎平成27年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

- (1) **利用者の意向を意識しつつ目標設定を行い、切れ目のない支援の展開**  
 年度当初に処遇支援方針を作成し、毎月2回の職員会でその課題を共有し臨機応変な対応に努めた。
- (2) **ハローワーク等就労支援機関と連携し、経済的自立への道筋をつける。**  
 延べ求職者16名。そのうち同行支援はハローワーク(はりまやジョブセンター)8名、ジョブカフェ2名、ポリテクセンター高知3名の計13名。  
 これにより2名が訓練校受講、4名が就労した。
- (3) **子供の育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行う。**  
 延べ534名の幼児の預かり保育を実施した。
- (4) **DV被害からの回避・回復のため、広域利用や一時保護の受入を行う。**  
 広域利用については、3世帯(県外2、市外1)の受入をした。  
 また平成19年度から高知県女性相談支援センター等と一時保護委託契約を結び、平成27年度は1世帯を14日間受け入れた。
- (5) **地域ニーズに対応するため、ショートステイ・トワイライトステイを実施する。**  
 1名を1日受け入れた。

(6) 防災・減災対策の実施

毎月1回避難訓練を実施、また年1回消防署による講習・消火訓練を受けた。  
8月には非常食の試食会をした。

◆年度別入所者数・職員数

各年度3月31日現在

年 度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
定数（暫定）	27世帯 (24)	27世帯	27世帯 (24)	27世帯 (24)	27世帯 (22)
入所世帯数 入所人数	18世帯 47名	19世帯 46名	20世帯 51名	21世帯 55名	24世帯 61名
職員数	8名	9名	9名	9名	9名

※職員数：臨時・パートを含む

◆平成28年3月31日現在の入所世帯状況（暫定 定員 22世帯）

入 所 世 帯 の 状 況	入所者数	24世帯61名（内児童数37名）				
	市内・県内外別	高知市内 ⇒ 10		県内市町村 ⇒ 10	県 外 ⇒ 4	
	主たる入所理由	D V ⇒ 11		住居の確保 ⇒ 3	その他 ⇒ 10	
	在所年数	5年以上／6	3～5年／3	1～3年／11	1年未満／4	
	就労者の状況	常雇 2名		パート 7名		無職 15名
	母親の年齢構成	10代/0名	20代/6名	30代/10名	40代/7名	50代/1名
	子どもの年齢構成	乳幼児 16名	小学 16名	中学 2名	高校 2名	大学 1名

◆各種研修会等への参加状況（19回／23名）

- 中四国ブロック母子生活支援施設研修会《高松市》・・・3名
- 全国母子生活支援施設研究大会《名古屋市》・・・2名
- 全国母子生活支援施設職員研修《大阪市》・・・1名
- 所内事例研修(子供の家)2回・・・2名
- 事例研修(女性相談支援センター)5回・・・5名
- 社会福祉簿記(初級)講座(ふくし交流プラザ)・・・1名
- 施設内感染対策研修(あんしんセンター)・・・1名
- 児童問題関係職員研修(県立大学)・・・1名
- DV対策連携支援ネットワーク会議(ソーレ)・・・1名
- 日弁連人権擁護大会プレシンポジウム(人権啓発センター)・・・1名

- 福祉サービス苦情解決セミナー(ふくし交流プラザ)・・・ 2名
- 社会福祉法人新会計移行処理(ふくし交流プラザ)・・・ 1名
- 防火管理新規講習(ふくし交流プラザ)・・・・・・・・・・・・ 1名
- 子育て支援ネットワーク「こうち設立準備会(JAこうち病院) 1名

◆主な年間行事

- 5月 こいのぼり昼食会、退寮者との集い
- 7月 高知市スポーツ交流会
- 8月 親子バーベキュー会食、巨峰園プール招待、ボーリング招待  
防災食料試食会、ハイキング(雨天の為愛媛子ども科学館)
- 10月 区民運動会参加
- 11月 秋祭り
- 12月 ポーセラーツ作成、クリスマス会
- 28/2月 節分豆まき、植樹祭招待(本山)
- 3月 進級進学祝い旅行(大阪)

子育て支援センター あい

地域子育て支援拠点事業として、子育て中のお母さんお父さんが、子育てが楽しくなるよう子育て情報交換・育児相談を行うとともに、親子が楽しく遊べる場所を提供するなど地域の子育てを応援している。

また、毎月子育て通信「あい」を発行し、行事内容の紹介を行うとともに（高知市保育幼稚園課・ソーレ・初月ふれあいセンター「そら」・南部健康福祉センター等にも送付）、市や他サークルの講座パンフレットを備えるなど、子育て支援のための情報提供に取り組んでいる。

◆職員数 2名（主任指導員及び指導員）

平成27年度の登録児童数 194名	
事業内容	① 育児相談 100件 (参考：平成26年度 103件・平成25年度 140件・平成24年度 138件)
	② 育児講座・・・実施回数12回 ※参加延べ人数 453名 (親：242名 子：211名)
	③ 遊び場提供 ○開所日数 243日
年間施設利用状況	延べ人数 4,613名 (親：2,250名 子：2,363名)
平成26年度	延べ人数 6,232名 (親：2,845名 子：3,387名)
平成25年度	延べ人数 5,552名 (親：2,733名 子：2,799名)
平成24年度	延べ人数 5,806名 (親：2,840名 子：2,966名)

平成27年度育児講座内訳

開催月	講座名
4月	お話し会(親子)
5月	いろいろなおもちゃで遊ぼう
6月	子供の救急時の判断・対応について
7月	子供の歯の話
8月	ネット時代の人間関係とは？
9月	調理実習(幼児食)
10月	あいあい運動会
11月	遠足(のいち動物公園)
12月	クリスマス会
1月	陶芸教室
2月	子どもの心と身体の発達
3月	笑いヨガ(親子で楽しむ)

開園以来68年を経過し、本園は地域園芸農家及び勤労者家庭の児童の福祉増進に寄与してきたところですが、近年、核家族化の進展、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応し、子どもや保護者に必要な支援が求められています。一人ひとりの子どもが健やかに成長するよう、保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援を職員の専門性を活かしながら取り組んできました。

◎平成27年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

**(1) 一人ひとりを大切にした保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障**

- ① 子どもの心を受け止め相互的なやり取りを重ねながら、育ちの見通しをもった援助を行った。
- ② 家庭と連携を密にし、子どもが安心して過ごせる場となるよう援助や関わりを行った。
- ③ 年間計画を立て一人一人の成長に合った見通しがもてる保育に努め、子どもが健やかに成長し、豊かな活動に取り組めるよう援助を行った。

**(2) 早出・居残り、乳児保育、障がい児保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供**

- ① 保護者の就労時間に応じた長時間保育を行った。
- ② 乳幼保育では積極的に取り組み、途中入所も受け入れ園児の増加に努めた。
- ③ 障がい児保育では研修に参加し、専門知識を身につけ保護者とともに子どもの育ちや支援に努めた。

**(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、園庭開放等保育所地域活動事業の実施**

- ① 園庭開放は、年間7名の来園者があり入園にも結びついた。
- ② 異年齢児交流では、卒園児童との異年齢交流の中で豊かな生活体験を始め保育内容の充実に努めた。
- ③ 世代間交流事業では、地域の老人施設慰問、老人宅訪問をする中で人をいたわり、思いやりの気持ちが育つよう努めた。

**(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援**

- ① 職員会や園内研修などで、園児の特性等の情報を職員間で共有し、個々の対応に連携して取り組んだ。
- ② 家庭環境に対する支援については、職員間の連携を図り関係機関とも協働・連携した取り組みを行った。

**(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上**

- ① 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高め、職員同士の共通認識をもった取り組みをした。園に専門の講師を招き、気になる子どもや支援の必要な家庭について話し合いを行った。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育の実施

- ① 保育が必要な家庭を対象に、平日午後7時00分までの延長保育に努めた。又、就労だけでなく家庭状況に応じて対応した。

(7) 園児の体力づくりのための体操指導、英語講師による異文化への関わりの実施

- ① 体を動かす楽しさ、大切さを知り柔軟な体づくりに取り組んだ。  
② オーストラリア出身の講師と一緒に、英語を交えたゲームや遊びの実施に取り組んだ。

(8) 避難訓練や防災活動の実施、及び関係機関と連携し、園舎改築についての取り組み

- ① 地域の小・中学校との合同訓練や自園の津波避難訓練計画に基づいた避難訓練、又防災活動を実施した。中学校とは、合同訓練を行い高知東警察署・三里交番の方とも合同訓練をし、評価をいただき次の訓練に活かすようにしている。  
② 防災対策、マニュアル等に基づく実践、不審者対策等様々な想定をふまえた訓練を実施した。  
③ 園舎改築は、基本計画、基本設計を終了する。改築に向け県内外の施設の見学を行った。

平成28年3月31日現在

定員	90名
職員数	22名（正職10名、臨職6名、パート6名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童88名、居残り児童88名

※臨時保育士6名中に障がい児加配保育士2名。

障がい児加配保育士は、見直しにより11月1日から1名となる。

◆在籍児童数

平成28年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	12	18	12	18	21	24	105

◆年度別：月平均在籍児童数

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
3歳児以上	71名	64名	61名	64名	64名
3歳児未満	39名	45名	39名	36名	39名
計	110名	109名	100名	100名	103名

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・ 8名
- 給食関係研修・・・・・・・・ 3名
- 保育士研修・・・・・・・・・・ 19名(高知県/高知市/全国保育士会)
- 保育業務に関する研修・・ 97名(障がい児保育研修会・発達障がいセミナー・リズム&ダンス研修・人権研修ほか)
- 危機管理研修・・・・・・・・ 3名
- 防災研修・・・・・・・・・・ 4名

◆平成27年度主要な年間行事

- 4月 入園式・対面の日、内科健診、幼児組懇談会、こども110番訪問(4・5歳児)
- 5月 親子こいのぼり運動会、老人ホーム慰問(シルバーマリン)、乳児懇談会  
職場体験(中学生)、家族の日
- 6月 小学一年生里帰り、参観日、歯みがき指導(学園短大生)、歯科検診、  
交通安全教室(幼児組)、就学相談訪問(教育研究所)、ケーブルテレビ撮影  
(5歳児)、不審者訓練
- 7月 プール開き、七夕笹飾り(祖父母)、夏まつり、地震津波避難訓練(高知東  
警察署・三里交番合同)
- 8月 職場体験(高校生)、老人ホーム夏祭り(5歳児)
- 9月 敬老慰問
- 10月 運動会、内科健診、幼児組園外保育、地震津波火災避難訓練(高知東警察署・  
三里交番合同)、芋掘り
- 11月 親子遠足、不審者訓練(警察合同)、火災通報避難訓練(消防署合同)、記  
念写真、年長児お買い物、保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健  
康診断、保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健康診断
- 12月 もちつき、お店屋さんごっこ、人形劇観劇、クリスマス会、地震津波火災  
訓練、(高知東警察署・三里交番合同)
- 28/1月 サッカー教室(高知大)、乳児組懇談会、地震津波火災避難訓練(中学校・  
高知東警察署・三里交番合同)
- 2月 豆まき、小学校一日入学(5歳児)、生活発表会、交通安全教室(5歳児)  
幼児組懇談会、不審者訓練
- 3月 卒園式、お別れパーティー、新入児保護者会、不審者訓練
- その他 ◆ お誕生会、火災避難訓練、体操・英語教室は毎月行っています。

## 保育所 丸の内保育園

開園45年の本園は、開設以来高知街地区の「たかしろ乳児保育園」とともに高知市乳児保育の推進役を果たしてきました。

近年、核家族化、少子化の進行、又子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等子どもと子育てをめぐる環境が大きく変化し、すべての子どもたちの健やかな育ちを支えとともに入所する子どもや保護者に対する適切な支援が求められています。家庭や地域など様々な社会との連携を図りながらそれらに向けた取り組みが行われています。

又、子ども子育て支援新制度が進められる中、子どもの連続した発達保障、質の高い保育を目指し、研修体系の構築、専門性の向上を目指しています。

### ◎平成27年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

#### (1) 安心して過ごせる家庭的な環境の中で一人ひとりを大切にされた保育を行い質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 乳幼児期における情緒の安定や信頼関係の形成、一人ひとりの発達に応じた適切なかかわりに配慮し、質の高い教育、保育の安定的な提供に努めた。
- ② 保護者、家庭の生活の実態、子ども達の現状をしっかりと把握し、安心して安全に園生活を過ごすことができる様職員間の共通理解のもと取り組んだ。

#### (2) 早出・居残り、乳児保育、障がい児保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 入所する子ども達の育ちを支え、保護者の子育てを支える為、0才児途中入所を多く受け入れた。
- ② 障がい、貧困など社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭を含め、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえ柔軟に対応した。

#### (3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、保育所地域活動事業の実施

- ① 地域のお年寄り宅、ディケア施設等への訪問を行ない人をいたわる優しい心を育むことができた。
- ② 小学生の行事参加や地域の小学校との関わりを通し豊かな生活体験を得ることができた。

#### (4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 保護者との連携を密に園全体で子育て及び家庭支援の強化を図った。
- ② 家庭環境に対する配慮等、保育内容の充実を図るとともに保健師、保育士による面談、相談の機会を設け園全体で取り組んだ。

#### (5) 保育士の資質向上と保育水準の向上について

- ① 施設内外の研修に計画的に参加し、職員の自己研鑽に必要な機会の確保に努め、研修後は職員会等で内容を共有した。
- ② 子ども・子育て支援制度についての理解等、一人ひとりが課題を明確にすることができた。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育、土曜午後保育の実施

- ① 保護者の就労支援の為、保育の必要な家庭対象に平日午後 7 時まで土曜日は午後 5 時 30 分までの保育を実施した。

(7) 津波避難計画に基づいた避難訓練や防災活動への積極的な参加

- ① 様々な想定に基づいた訓練を積極的に実施した。  
② 防災、減災対策の課題を共有しつつマニュアル、対応についての見直しを行った。

(8) 地域性の少ない園ではあるが、今後は地域の子育て支援の機能を強化すべき取り組みの展開

- ① 保育園が地域子育て支援のニーズにこたえていく役目は年々増加している。  
地域の子育て家庭とつながることの必要性を考え、地域の親子への園行事への参加案内等、取り組みは進めてきた。地域と一体となった支援には十分結びついていないが、地域の園児確保や開かれた園づくりを今後も考えていきたい。

(9) 園舎改築についての取り組み

- ① 他園見学、情報収集など実施してきたが、今後は関連機関との連携を図りながら改築への取り組みを具体的に進めていく。

平成 28 年 3 月 31 日現在

定員	120名
職員数	30名（正職10名、臨職14名、パート6名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童63名、居残り児童89名
土曜日の午後保育	登録園児数33名、平均利用人数18名

※ 臨時職員 14 名中に障がい児加配保育士 2 名、家庭支援保育士 1 名を含む

※ パート職員 6 名は延長保育時間対応（3 時間～6 時間パート）

◆在籍児童数

平成 28 年 3 月 31 日現在

年齢別	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
児童数	25	28	16	22	19	13	123

◆年度別：月平均在籍児童数

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
3歳児以上	58名	63名	62名	58名	55名
3歳児未満	62名	58名	60名	57名	65名
計	120名	121名	122名	115名	120名

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・20名
  
- 給食関係研修・・・・・・・・・・6名
- 保育士研修・・・・・・・・・・40名(高知県/全国保育士会)
- 保育業務に関する研修・・75名(障がい児保育研修会・発達障がいセミナー・  
接遇・リズム&ダンス研修・人権研修・家庭  
支援研修)
  
- 危機管理研修・・・・・・・・・・6名
- 防災研修・・・・・・・・・・11名

◆平成27年度主要な年間行事

- 4月 入園式、対面集会、乳幼児組別懇談会、個別懇談、春の交通安全出発式  
参加
- 5月 こいのぼり運動会、全園児健診、わんぱくこうち行き(年長児)、職場  
体験(中学生)、劇団ひこう船観劇(年長児)
- 6月 保育参観日、離乳食試食会、プール開き、職場体験(中学生)、歯科検診
- 7月 市営プール行き(年長児)、七夕笹飾り集会、夏まつり(夕涼み会)、夏の  
水遊びお楽しみ会、不審者侵入訓練、小保連携実践交流
- 8月 大掃除、職員保育見学(第六小)
- 9月 敬老慰問、敬老の日行事(祖父母への手紙を出す)、消防署立ち会い避難  
訓練、未満児健診
- 10月 運動会、親子遠足、お芋ほり、地域のお年寄り絵本読みきかせ、筆山山登  
り(10~12月)
- 11月 みかん狩り、木曜市お買物、交通公園安全教室参加(年長児)、家族の日  
プレゼント、保育の日、バザーお店やごっこ、全園児健診、歯科検診、  
就学前健康診断、地域のお年寄り絵本読みきかせ
- 12月 もちつき、クッキーづくり、シルエット劇観劇、クリスマス会、地域の  
お年寄り絵本読みきかせ
- 28/1月 お正月あそび大会、不審者侵入訓練
- 2月 豆まき、小学校一日入学(5歳児)、生活発表会、未満児健診
- 3月 卒園式、茶話会、お別れ遠足(香北青少年の家)、新入児保護者会、消防  
署合同避難訓練(火災)、小保連携実践交流
- その他 ◆ 毎月お誕生日会、避難訓練を行っています。  
◆ 個別相談、育児相談は必要に応じて行っています。